

「チーズケーキを3つください」

× Can I have three cheese cakes?

<こう聞こえてしまう...>

チーズケーキをホール(丸ごと)で3つください。

* three cheese cakesだと、「切り分けていないホールのチーズケーキを3つ」の意味になってしまう。

<こう言うのが正解！>

Can I have three pieces of cheese cakes?

「(飲み物をすすめて)お熱いうちにどうぞ」

× Have some tea while it's hot.

<こう聞こえてしまう...>

熱湯のうちに飲みなさい。

* while it's hotは「熱いうちに」ではなく、「熱湯」になってしまう。

<こう言うのが正解！>

Have some tea before it gets cold.

Don't let the tea get cold.

「やけどしちゃった」

× I got burned.

<こう聞こえてしまう...>

詐欺にあったよ。

* I got burned.で終わってしまうと、「やけどをする」という意味では受け取られない恐れがあるので注意。I got burned.はスラングで「だまされる」「詐欺にあう」という意味。

<こう言うのが正解！>

I got burned on my foot.

I got burned on my foot.なら、どこをやけどしたのかも伝えられる。I got burned on my hand. (手にやけどをした)もしくはMy hand got burned.などと言ってもOK。

「プールに行って泳いだ」

× We went to the pool to go swimming.

<こう聞こえてしまう...>

プールに行ったが泳がなかった。

*We went to the pool.だけでいいところを、あえて to go swimming とつけて言うと、その後ろに「でも...だった」の but 節が続くような口調になってしまう。

<こう言うのが正解！>

We went swimming.

最も自然なのは、We went to the pool.

「自分で料理はしますか？」

× Do you cook yourself?

<こう聞こえてしまう...>

自分の体を料理しますか？

*cook yourself では「自分の体を料理する」という意味になってしまう。これではホラー映画です。

<こう言うのが正解！>

Do you cook?

*「自分で」を無理やり英語にする必要はありません。Do you cook? だけで十分意味は通じます。あえて yourself を使うなら、Do you cook for yourself?とすれば大丈夫です。

「彼は特別な人です」

× He is special.

<こう聞こえてしまう...>

彼は体に障害があります。

* (人) is special. はほとんどの場合、身体および精神に障害があることを婉曲に言う表現となります。例えば special education は「障害者教育」です。一方、a special person と言った場合には、「特別な人」「独特な人」という意味になります。定冠詞 a がつくかどうかの差ですが、気をつけて使わなければいけない言い回しです。

<こう言うのが正解！>

He's a special person.

彼の責任ではない

× I don't blame him.

<こう聞こえてしまう...>

彼のしたことは間違っていない

*I don't blame him. を直訳すると「私は彼を責めない」で、「彼のしたことは間違っていない」という意味になります。そこで例えば、こうなったという for this を加えて次のようにします。I don't blame him for this. この文を直訳すると「このことについて彼を責めるつもりはない」となり、「こうなったのは彼の責任ではない」というニュアンスになるため、正確に伝わります。

<こう言うのが正解！>

I don't blame him for this.

「彼を車から降ろした」

× I dropped him.

<こう聞こえてしまう...>

私は彼をふった。

*drop には「関係を絶つ」「別れる」といった意味があり、I dropped him. で「私は彼をふった」となります。一方、drop ... off で「(人や物を車から)降ろす」という意味になり、I dropped him off. で「私は彼を(車から)降ろした」という表現になります。

<こう言うのが正解！>

I dropped him off.

「そんなに気にすることないよ、ね」

× You don't think much, do you?

<こう聞こえてしまう...>

頭を使わないやつ、脳がない。

*You don't think much. を直訳すると、「あなたは頭をあまり使わない」となります。「気にすることない」は don't worry を使って表現しましょう。

<こう言うのが正解！>

You don't worry much, do you?

「パンを焼きましょうか？」

× Would you like me to burn you some bread?

<こう聞こえてしまう...>

あなたを焼いてあげましょうか？

*burn は「燃やす」という意味なので、「パンを焼く」には toast を使います。なお、「トースターで焼く」のではなく、「手作りのパンをオーブンで焼く」なら bake を使しましょう。

<こう言うのが正解！>

Would you like me to toast you some bread?

「2人兄弟です」

× I have two.

<こう聞こえてしまう...>

(僕の他に) 2人いるよ。

*「何人兄弟？」と聞かれたら、日本語だと通常は「総人数」で答えます。でも英語だと、自分を除いた人数を答えます。つまり、日本語で2人兄弟なら I have one.

3人兄弟なら I have two brothers.と、英語では答えるのです。

<こう言うのが正解！>

I have one.

「夫はちょっと変わっているの」

× My husband is queer.

<こう聞こえてしまう...>

夫はゲイです。

*queer では、「変わっている」ではなく「ゲイである」という意味になってしまいます。誤解を避けるには、strange あるいは weird を使うといいでしょう。

<こう言うのが正解！>

My husband is weird.

「私の名前は、日本ではよくあります」

× My name is really popular in Japan.

<こう聞こえてしまう...>

私の名前は日本でとても人気がある。

*popularだと「ありふれた」ではなく「人気がある」という意味になってしまう。

<こう言うのが正解！>

My name is really common in Japan.

「オバケを信じる？」

× Do you believe ghosts?

<こう聞こえてしまう...>

オバケの言うことを信じるかい？

*believeは「～の言うことを信じる」という意味なので、この英語では「オバケの言うことを信じるかい？」と聞こえてしまいます。正しくは、believe inを使って言いましょう。

<こう言うのが正解！>

Do you believe in ghosts?

「鳥肉が好きです」

× I like chickens.

<こう聞こえてしまう...>

私はにわとり好きです。

*「鳥肉」の意味で使う場合、chickenは不可算名詞扱いになるので、複数形にしてはいけません。複数形だと「にわとり」という意味になるので、I like chickens.だと「私はにわとり好きです(にわとりフェチ)」となってしまいます。

<こう言うのが正解！>

I like chicken.

「雷の音を聞いた」

× I heard some lightening.

<こう聞こえてしまう...>

私は稲光を聞いた。

*日本人のよくやる間違いの1つに「雷」があります。日本語で「雷」と言えば「光」と「音」の両方を指しますが、英語では両者を厳密に区別します。「音」なら thunder (雷鳴)、「光」なら lightning (稲光)と言います。注意しましょう

<こう言うのが正解！>

I heard some thunder.

「上司が先週亡くなった」

× My boss finally died last week.

<こう聞こえてしまう...>

ようやく上司が死んでくれた。

* finally の意味に注意。finally には「ずっと心待ちにしていた、ようやく...」という意味があるため、My boss finally died. は「まだかまだかとずっと心待ちにしていたけれど、ようやく上司が死んでくれた」という、とんでもない意味になってしまいます。

<こう言うのが正解！>

My boss died last week.

「彼女と楽しんだ」

× I enjoyed myself with her.

<こう聞こえてしまう...>

彼女とセックスした。

* 直訳すると「彼女と好きなようにした」となりますが、「彼女とセックスした」という意味になってしまいます。普通に「楽しかった」と言いたいのであれば、違う表現を使いましょう。

<こう言うのが正解！>

I had a good time with her.

「私の夫はお酒が好きなの」

× My husband drinks.

<こう聞こえてしまう...>

私の夫はアルコール依存症なんです。

*文末に a lot をつけば「お酒が大好き」という意味になり、大丈夫です。

<こう言うのが正解！>

My husband drinks a lot.

「十分いただきました」

× I've had enough.

<こう聞こえてしまう...>

もうたくさんだよ。

* I've had enough.だと、「もうたくさんだよ」という意味になってしまいます。失礼な言い方に聞こえるため、正しい言い方を覚えましょう。

<こう言うのが正解！>

I've had plenty.

「満足しました」

× I'm satisfied.

<こう聞こえてしまう...>

まあ、いいんじゃないの。

* I'm satisfied.では褒め言葉になりません。これでは「まあ、いいんじゃないの?」「ま、いっか」くらいの意味になってしまいます。I really liked it.なら、「それを本当に気に入りました」「満足した」となりません。

<こう言うのが正解！>

I really liked it.

「どうやって使うの？」

× What's the use?

<こう聞こえてしまう...>

そんなもの何の役に立つの？

*use をたとえ名詞で使っても、「使用法」という意味にはなりません。そのため What's the use? は「そんなもの何の役に立つの？」という失礼な意味になってしまいます。これでは、相手が気分を害するのでも無理ないですよ。

<こう言うのが正解！>

How is it used?

「5時までに、じゃがいもを料理してください」

× Please cook the potatoes until 5:00.

<こう聞こえてしまう...>

5時までずっとじゃがいもを料理し続けてくれ。

*until を使ったのが大間違いです。until は「...まで」ではなく、「...までずっと」です。「...まで」なら by を使しましょう。

<こう言うのが正解！>

Please cook the potatoes by 5:00.

「彼が通りかかった」

× He passed on.

<こう聞こえてしまう...>

彼は死んだ。

*pass on は die を婉曲的に表現する言い回しで、「死ぬ」という意味。「通りかかる」なら pass by です。前置詞のちょっとした違いが、“文字通り”命取りになることもあるので、注意が必要です。

<こう言うのが正解！>

He passed by.

「あれは何の匂いですか？」

× What's that smell?

<こう聞こえてしまう...>

何のいやな臭い？

*smell は「嫌な匂い」「悪臭」という意味で使われることの多い単語。いい匂いのニュアンスで使うなら、fragrance を使いましょう。

<こう言うのが正解！>

What's that fragrance?

「よく聞こえないのですが」

× I can't listen to you.

<こう聞こえてしまう...>

あなたの言うことなんか聞いてられないよ。

*I can't listen to you. は「あなたの言うことなんか聞いてられない」、つまり「聞く耳をもたない」という大変失礼な意味になります。「聞こえない」なら、hear を使いましょう。

<こう言うのが正解！>

I can't hear you.